

第 2 号

Library Mate



館長就任の挨拶

図書館長 宮澤文雄

日本人は働き過ぎであり、せっかちという風評が広がり、一時は「ゆっくり運動」などという言葉が流行したが、最近では余り耳にしなくなった。約25年前、私はカナダアルバータ大学医学部癌研究所でたんぱく質合成の仕事をしたが、その折 information exchange group No. 7 という核酸に関する情報グループに加入した。グループの目的は専門誌掲載前に研究内容を加入者に伝達することであり、その範囲はアメリカ、カナダ、ヨーロッパ諸国にわたるものであ

った。情報が速いためか、数ヶ月後には相手は追いついてくる大変熾烈な競争世界でしたが、研究の仲立ちをしてくれたのが図書館でした。今や世界中が情報化時代といわれ、コンピューターを駆使し、スピードを競っている。本学図書館は文学部に所属する多くの古典籍を所蔵するが、同時に家政学部のための日常生活の科学書も逐次整備されている。今後更に利用されやすい、時代に沿った図書館を目途に努力する所存です。

図書館の楽しみ

——あるいは『薔薇の名前』と「バラのつぼみ」——

美学美術史学科 島田紀夫

数年前にロンドンの映画館で『薔薇の名前』を見ながら渋谷の旧校舎の図書館を思い浮かべたのは、台詞の意味がよくわからずにあらぬことを妄想していたからではない。イタリアの記号論学者ウンベルト・エーコの原作は600ページを越す大作で、しかも複雑な筋立てと該博な知識によって組み立てられているから、読みとおすのはかならずしも容易ではない。しかし、映画は小説にくらべるとはるかに明快な内容になっている。だから、映画を見ながら渋谷の図書館を思い出したのは、『薔薇の名前』の舞台になっている修道院の迷宮のような複雑な書庫の構造のためだったにちがいない。

渋谷の図書館が迷路のような構造になっていたのは、狭い建物のなかに次第にふえる図書を収蔵するための苦肉の策だったのだろう。日野の新校舎の一階の大半をしめる図書館はみちがえるほど明るく利用しやすい。しかし、『薔薇の名前』の舞台になっている修道院の書庫は意図して迷宮のように作られたのである。それは何故か。そこには古典古代の文献の多くが写本として蔵されていたが、キリスト教がローマの国教として教会を中心に制度化されるにしたがい、そこは異端の思想の温床のようにみなされた。盲目の図書館長ブルゴスのホールへはこれらの写本が修道士たちの目にふれることを極端に恐れていたから、この書庫を迷路のようにしておいたのである。特に彼は、アリストテレスの『ポエティカ（詩学）』の第二部『喜劇論』（この著書は実際には散逸して現在には伝えられていない）を秘守していた。そこに記されている「笑い」に関する論述は民衆を過ちに導く、と彼は考えていた。このベネディクト派の修道院で殺人事件が次々におこり、ションコネリー扮するフランシスコ派の修道士バスカヴィルのウィリアムがその事件を解決しようとする。その事件にはこれらの写本が深くかかわっているのだが、推理小説（あるいは推理小説のパロディ）の筋を述べるのはルールに反するのでこれ以上のことは書けない。

図書館史などの本を読むと、中世の修道院がキリスト教にとっては異教である古典古代の文献を継承するうえで重要な役割を果たしたことが分かる。しかしそこでは文献の保存に主眼がおかれており、閲覧や情報公開を主要な目的とする近代的な図書館とはいささか趣を異にする。近代図書館はそのためにさまざまな工夫をしている。図書の収集や配列、目録の整備、検索カードや閲覧カードの作成など、図書館司書の仕事は多様である。しかし、近代図書館は資料の収集と提供の自由と同時に、利用者の読書の秘密を守るという近代社会に不可欠なプライバシーの保護にも意をもちなければならない。

一見矛盾するような近代図書館のこうした存立条件に筆者が関心をもったきっかけは、1987年の第5回サントリーミステリー大賞受賞作『土壇場でハリ－・ライム』（典厩五郎作）がひきおこした、ささやかだが図書館にとっては重大な事件(?)である。このミステリーには、ある殺人事件の調査のために日比谷図書館の閲覧者カードの内容を外部の人が入手する個所があった。そのことを、現実の日比谷図書館が作者に抗議をした。そのために、作者は雑誌に掲載された作品の一部を単行本に収録するさいに訂正した、という事件である。このミステリーはある人物の読書内容が殺人事件を解決するうえで重要な意味をもっている。しかし、フィクションの世界とはいえ、現実の図書館の仕事を誤解させるような記述はつつまなければならないだろう。

ところで『土壇場でハリ－・ライム』という題名は、いうまでもなくキャロル・リード監督の映画『第三の男』の主人公の名前から取られている。その人物を演じるオーソン・ウェルズが脚本・監督・主演した『市民ケーン』がこのミステリーの謎を解くもう一つの鍵になっているが、この映画にも謎解きのモチーフがある。そのキーワード「バラのつぼみ」と『薔薇の名前』との関連を考えようとしていたのだが、紙幅がつかず書かずすむのは幸いである。



私の一冊の本

文学部長 分銅惇作

大正3年(1914)の秋、18歳の宮沢賢治は、たまたま手にした鳥地大等編『漢和対照 妙法蓮華経』を読み進むにつれて、感動のあまり身慄いたという。旧制中学校を卒業したばかりの青年が、難信難解の法華経を十分に読みこなす学力があったとは信じがたい。だが賢治は嘘をいう人ではないので、身慄いするほど感動したのは事実であろう。爾来、法華経は座右の書となり、彼の生涯の信仰と文学に決定的な影響を与えている。

青春の一冊の本との出会いは、思議を超えた靈妙な働きを示すものだ。多分賢治は法華経を読んで教学的なことがらは何もわからないまま、電流に触れたような衝撃を受けたのに違いない。細部の読解にこだわらずに詩的な読み方をしたので、かえって本質に触れることができたのだろう。2千年間も衆生を導き続けて来た聖典の光に感応して、身慄いたのではなかろうか。彼の狭い日常的な生活体験とは別個の高次元な精神の世界があることを知って、非日常的な時間が音をたてて流れ始めた読書体験であったろう。

ところで、濫読癖に毒された私に特筆すべき青春の一冊の本などあるわけではない。気まぐれな文学青年として貴重な青春を浪費しただけだが、幾つかの忘れがたい読書の思い出から強いて一冊をあげるとなると、ニイチェの『ツアラトウストラ』であろうか。

学徒兵として入隊するおり、私が〈軍人精神涵養の書〉と偽装カバーをかけて持ち込んだのは、生田長江訳の『ツアラトウストラ』の文庫本だった。超人思想を説いたニイチェの自我主義に共鳴したのは、晩年発狂したこの詩人の孤高な魂にひかれていたからであろう。殊に長江訳は古蒼とした格調の高い難解な文章だったので、出征の伴侶に選んだのだと思う。野営の夕焼空の光をたよりに人目につかぬように草叢に隠れて読んだのを思い出すが、その本はボロボ

ロになって帰還し、いまだに私の本棚の片隅にほこりにまみれている。

戦後、復員して焦土と化した東京に戻り、学生生活を再開したころは、あらゆる価値観が顛倒した混乱期であった。私は戦争を防ぐことのできなかつた文化の無力に懐疑的になり、殊に薄汚れた言葉の不潔さに対する不信感が強かった。痛みを伴わない空疎な言葉に背を向けて精神的な彷徨を続けていた。そんな言語拒絶症の虚脱状態から私を救ってくれたのは、万葉集と宮沢賢治の文学だった。戦火にも焼け崩れずに輝いている言葉の美と真実を発見したのである。古典詩から現代詩へと貫流する言葉の清冽な水脈が見えて来たのである。生涯を国文学の研究に委ねても悔いはないと決意した。

ところで、宮沢賢治研究に深入りするにつれて、どうしても核心に迫り得ないもどかさから、賢治がどのように法華経を受容して、宗教と科学を関係づけているかを究明しなければならぬと気づいたのである。賢治は若年にして法華経に親しみ、独自の宇宙観・生命観を芸術的に表現した天才詩人であるが、凡愚な私は賢治文学に導かれて法華経の世界を知ったわけである。

過去30年余り、私は高校の国語教科書編集の仕事に携って来た。したがって人一倍幅広く新刊書を読み漁って教材さがしを続けてきた。目新しく思った本もどんどん古びていくが、古びないのは古典だけである。殊に法華経は座右の書として、人生の下り坂を歩む私の氣力を支えてくれる。宗教学の門外漢である私は、古い仏典を新しい詩のように気ままに享受して、現代の火宅の世相を眺め、忍辱の旅を続けたいと願っている。



読書について

短大生活文化
学科主任 前田 博

西田幾太郎の「善の研究」、和辻哲郎の「古寺巡礼」、「人間の学としての倫理学」、阿部次郎の「三太郎日記」、倉田百三の「愛と認識との出発」、「出家とその弟子」、斎藤茂吉の「万葉秀歌」、鈴木大拙の「禅と日本文化」、田辺元の「哲学通論」、「科学概論」等々……と思いつくままに羅列した。之等は曾っての高等学校、大学予科、専門学校の生徒によって読みつがれ、親しまれた本である。

人々はそれによって哲学への眼が開け、佛教へと発心し、改めて日本文化を考える糸口をつかんだものである。

しかし、こんなことを今更言っても、同年輩の老人を多少回顧的にするだけで、若い人々からは年寄りの戯言——多分、この内の一冊です

ら読んだことがない人が多いと思われるので——と軽蔑されるに止まるであろう。

読みかつ考え、自己形成をせねばならぬ青年期に、マンガを読み耽る姿は、如何にも象徴的で、暗記と○×式学習によって育った人々にとっては、直覚的、反射的な把握には習熟しているが、「あれかこれか」と判断に迷うようなプロセスを伴う読書は敬遠されがちとなろう。

しかし、若い人々にとって創造の原動力となる感性を培い、整然とした理論的思考によって理性を研ぎ澄ますということは、人間形成に必要なことであろう。

せめて、大学では、同じ物を見、聞いても人によって感じ方が異り、立場の違いで、ある事象の解釈が異ってくることを学び、自らの道を選択し、自我を形成する努力を払いたいものである。

そのための読書、そして人を啓発し、啓蒙するような本が数多く店頭に残ることを望んでやまない。

書誌情報

- | | |
|---|--------------|
| 愛と認識との出発 倉田百三著 筑摩書房 1956 (現代日本文学全集 第74巻) | 918.6-G34-74 |
| 土壇場でハリライム 典廐五郎著 (オール読物 1987年6月号) | |
| 土壇場でハリライム 典廐五郎著 文芸春秋 1987 | 913.6-Te36 |
| 法華経大講座 全12巻 小林一郎著 久保田正文増補 日教出版 1962~1965 | 188.3-1 |
| 科学概論 田辺元著 筑摩書房 1963 (田辺元全集 第2巻) | 121.6-Ta83-2 |
| 古寺巡礼 和辻哲郎著 岩波書店 1986 (岩波文庫) | 702.1-W48 |
| 万葉集歌 上, 下 斎藤茂吉著 岩波書店 1982~1983 (岩波新書赤版5, 6) | 911.123-28 |
| 人間の学としての倫理学 和辻哲郎著 岩波書店 1946 (岩波全書) | 150.4-2 |
| 三太郎の日記 阿部次郎著 岩波書店 1949 | 910.4-42 |
| 出家とその弟子 倉田百三著 筑摩書房 1956 (現代日本文学全集 第74巻) | 918.6-G34-74 |
| 哲学通論 田辺元著 筑摩書房 1963 (田辺元全集 第3巻) | 121.6-Ta83-3 |
| ツァラトウストラ ニーチェ著 生田弘治訳 1911 国立国会図書館蔵 | |
| ツァラトウストラ ニーチェ著 吉澤傳三郎訳 理想社 1977 (ニーチェ全集 第9巻) | 134.9-N67-9 |
| 善の研究 西田幾太郎著 岩波書店 1986 (岩波文庫) | 121.6-N81 |
| 禅と日本文化 鈴木大拙著 岩波書店 1982 (岩波新書) | 188.8-23 |



奥村文庫紹介

今回は、短期大学図書館に所蔵する奥村文庫の内容を紹介したい。

奥村文庫は、故奥村藤嗣先生から1984年に寄贈された図書1,646冊から成っている。奥村先生は、実践女子大学及び短期大学の図書館学講座の講師として、1972年から1982年まで教鞭を執られた。そのご縁で蔵書を短期大学図書館にご寄贈下さったのである。

文庫の主要なものを以下に挙げる。

- ① 昭和20年～50年代に刊行された図書館及び図書・書誌学に関する資料

- ② 黒川真頼・真道の黒川家旧蔵本を中心とする日本法制史関係図書。『百寮訓要抄』『官職秘鈔』『職原抄』などの黒川本は、表紙に「官職」の朱印がある
- ③ 『吾妻鏡 52巻』（慶長古活字版の巻24～27もある）『古事記伝 44巻』『修紫田舎原氏38編76巻』『とりかへばや 4巻』など100点余りの写本・刻本
- ④ 三田村鳶魚の著作の初版本を含む江戸時代の歴史・文学に関する資料
- ⑤ 園芸・美術・茶道などの趣味の図書や武井武雄の版画など

これらの図書は、貴重なものもあり、また、概ね古いものが多く破損しやすいため、一般の図書とは別にして、電動書架⑬に配架してある。しかし、和本以外は、一般図書に準じて貸し出しを行っているのでぜひ活用してほしい。

なお、短期大学図書館では『奥村藤嗣文庫目録』を1986年に12月に刊行した。参考図書コーナーに『実践女子大学蔵書目録』などと共に並んでいるので利用していただきたい。（請求番号 029.9-0 55）

図書館の仕事〈2〉

大学図書館の相互協力

大学図書館はその目的である教育と研究活動を効果的に援助するために、二つの役割をもっています。一つは Service agency であり、もう一つは Material center です。公共図書館と違って収集する資料は一寸ばかりお堅くてとつき難いと思いますが、当館は Under graduate（学部の学生）を対象とした機能を大きくもっており、大学院生や先生方にはもの足りない図書館だろうと思います。しかし、大学図書館は大学設置基準が適用され、具体的に座席数、学部学科当りの必要図書数と学術雑誌の数量などが定められています。この基準は一応の目安に

すぎないので、各大学は設立の歴史的経緯や研究目的などの独自性のもとに資料の収集を積み重ねています。

今日の大量の出版物に対してはどこの図書館でも対応しきれないので、不足の部分を相互に融通し合うシステムが大学間につくられており、有効に働いています。閲覧、貸借、複写、所蔵調査などのサービスが、国公立大学の枠にとられずに日常の図書館活動として行われています。このように他大学からのサービスを受けられますが、利用に当っては、当大学図書館を経由することが必要です。

ブック★ストック

—歳書ガイド—

下田歌子関係資料 大学図書館が所蔵する特殊コレクションの筆頭に上げられるのが下田歌子関係資料である。下田先生は、上流女子から一般婦女子に至る人達の学校運営と、生徒の訓育に当たった教育者である。著作はそれら学校教育の中で進められ、明治30年代から大正5年頃までが最も盛んであった。

「泰西婦女風俗」「婦女家庭訓」「婦人礼法」「女子の心得」「女子の修養」「家政学」といった女子の教養書を多く執筆している。著作の詳細については、『下田歌子先生資料目録』（実践女子大学文学部紀要 第12集 昭和44年10月刊）と『下田歌子関係資料総目録』（昭和55年3月刊）を参照するとよい。

下田関係資料については、図書、書簡、短冊、軸物などの未収資料の収集が現在も続けられている。最近に下田記念資料室に収蔵されたものをいくつか紹介したい。

小萩集（帝国婦人協会出版部 明治39年）A6 128頁。序文やあとがきが無いので、出版の意図は不明だが、当時の婦女家庭訓話ともいえるべき内容で、四人の論説がある。婦人の十徳 下田歌子、蒙古談 河原操子、鐘の音 中島孤島、有心無心 西本翠蔭の四編で、下田先生は正実、仁慈、恭謙など十の徳を記し、解説している。

現代女学生宝鑑 星野すみれ著 下田歌子関（益世堂 明治39年）新書版 260頁。下田先生の著作ではないが、巻初に学習院女学部長下田歌子女史関とある。

朝日講演集 第2輯（朝日新聞社 大正6年）1冊。本書は大正6年1～6月に至る期間の朝日講演会を収録したものである。下田先生はこの間2回の講演をしており、期日、演題、収載頁数は次のとおりである。1月27日「**欧洲戦争と我国の教育**」（25頁）、1月28日「**東西衣食住と長短**」（26頁）。

雪を背景として活動する婦人 下田歌子著

（「婦人世界」第9巻第14号 大正3年12月 実業之日本社）花が婦人の形態美を代表するならば、雪は性格美であるとして女性の精神面にふれ、この一編を記している。

姫小松 下田先生追悼記念号 第11号（順心高等女学校 昭和12年）同校の学友会誌。表紙に「曇りなきいろに匂ひて仇し世のちりをなすゑそやまとなでしこ」の短歌が色紙様に一首ある。図版は下田先生御肖像、下田先生追悼式の2枚である。本文は全頁に哀悼の文章のほかに哀悼歌を掲載している。

短冊 『ことこの葉の花のかけなるひめ小松千代のかざしと誰か見ざらん 歌子』

軸物 昭憲皇太后御製歌『人ごゝろかゝらましかばしらたまのまたまの火にも焼かれざりけり 下田歌子書』

軸物 暁更月ということ『有明の月こそほれぬばたまのよぎりはれゆく山松の上に 歌子』

以上の8点のほかに前田正名宛書簡2通を最近入手したが、整理作業中である。

雑誌などの定期刊行物については、下田先生の著作と下田先生に関する記事を収集しているが網羅的ではない。よって短い期間と限られた資料ではあるが、明治から昭和初年に至る年代の中から拾い上げてみた。前号に紹介した学内刊行物に加えて女学雑誌、婦人世界、女鑑、婦人界、女子之友、ムラサキ、淑女画報など27誌を調査した。本欄で詳述することはできないが、全部で485件の論文、記事、和歌、雑録などを選び出すことができた。著作の内容は教養や実用的なもの、啓蒙性をもつものなどである。これらは、明治期における女性の根幹である良妻賢母主義であり、また戦役に対する婦人の献身が説かれるなど、この時代における婦女子の社会的位置の明示であり、証言であろう。(S)

Library Mail

— 収書 ガイド —

今回は服飾関係にスポットをあててみた。

中国历代服飾 上海市戏曲学校中国服装史研究組編著 (学林出版社 1986) 時代を上古、奏・漢、魏晉南北朝、隋・唐、宋、遼・金・元、明、清、近代と分け、それぞれの時代の服装の特徴と変遷の過程が述べられている。帝皇、貴族、官吏から、庶民に至るまでのそれぞれの違った服飾—冠、髪、型、装飾品、履などを系統的に紹介し、中国歴代の衣冠制度を説明したものである。(383.1-Sh12)

クリスチャン・ディオール 1947—1957 クリスチャン・ディオール [デザイン] ブリジット・キーナン著 金子桂子訳 (文化出版局 1988) 本書は“Dior in Vogue”の翻訳である。1947年にニュールックを発表してから1957年に死ぬまでの10年間にわたるディオールの足跡を「ヴォーグ」が掲載した250枚の写真と記事、およびディオールの自叙伝からの抜粋、ディオールが生前親しくしていた人々の発言をもとにたどったものである。(593.3-D59)

譜説かさねの色目配彩考 色譜 平安の美裳 長崎盛輝著 (京都書院 1987 3冊) 本書は、重・襲の両色目を表示する色譜とその解説書から成り、色譜には資料の故実書に見られる色目の中から代表的なものを掲載し、解説書ではその色目の関する事項を解説すると共に、色譜にとり上げなかった説も一覧表示してある。

(757.3-N21)

むかしきれ和更紗紋様裂手控 吉本嘉門編 (京都書院 1986) 和更紗とは、日本で製作された更紗で、この手控版には江戸末期から明治・大正期にかけての和更紗裂実物94点が貼付されている。(753.8-Y91)

Abbigliamento e costume nella pittura italiana : Carlo Bestetti, Edizioni d'Arte, 1962 ~ 1964 2vols. 図版集イタリア絵画に現われた服飾と慣習 (全2冊) 約1000点におよぶイタリア絵画の写真図版 (彩色を含む) を通じて、常に

ヨーロッパ文明をリードし続けたイタリア文化の粋を明らかにした豪華本。総クロス装。

(391-Ab1)

Le Bon Genre : réimpression du Recueil de 1827 com prenant les <Observation...> et les 115 gravures / préface de Léon Moussinac.— Paris : Les Éditions Albert Lévy, [1931] ラ・メザンジュールが1827年に出版したファッションプレート集「ル・ボン・ジャンル—パリのモードと慣習の観察」を1931年に完全復刻。E・ドワトゥーによる細密な版画とJ・ソデーによる入念な彩色が、19世紀初頭のパリの老若男女貴賤を問わぬ様々なファッションを、115枚のプレートを通じて現代に甦らせる。限定750部中の第205番。(391-B69)

Dior : Christian Dior 1905 — 1957 / Françoise Giroud ; photo. Sacha Van Dorssen — Paris : Editions Du Regard, c1987 デイオールの洋装小物から香水にいたるまでの作品集である。豪華で魅惑的なディオールの仕事が素晴らしい写真技術とあいまって我々を夢の世界にはこんでくれる。(746-G52D)

Ikat Batik Plangi / Malfred Bühler. —Basel : Pharos-Verlag, 1972 3vols. 本文, 注釈・参考文献, 図版の3冊からなるイカット織パティック染、紋染のビューラーの著作である。(746.6-B93)



＊ ＊ ＊ いんふお-め-しょん ＊ ＊ ＊

1989年4月～10月の予定

大学図書館

開館時間

月～金 9時～18時 土 9時～16時

夏期休業期間：9時～16時

休館日

書庫整理：4月27日，5月6日，5月25日，
6月29日，9月28日

夏期休業期間：8月，9月の各土曜日
8月7日～11日

試験期間中の貸出

7月3日(月)～22日(土)：1日貸出

特別貸出

夏期休業貸出

期間：7月24日(月)～9月29日(金)

冊数：学部1～3年生 短大生 5冊

学部4年生 大学院生 10冊

卒論・修論用貸出

文学部対象

期間：10月2日(月)～11月30日(木)

冊数：10冊

(家政学部対象の貸出は12月1日よりの予定です)

※上記予定についての詳細は、その都度掲示いたします。なお、夏期休業期間中に図書館施設の工事を予定しております。その際、休館もしくは開館時の資料の利用制限も予想されます。

編集後記

情報社会と言われる今日、より速く最新の情報を提供することが、図書館の課題となっています。そのために機械の力をかりて効果を上げることがさかんに考えられています。

「図書館の自由に関する宣言、1979年改訂」の中で、「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする」とし、ノ

短期大学図書館

開館時間

月～金 9時～17時 土 9時～16時

試験期：9時～18時 6月26日～7月21日の
(月)～(金)

夏期休業期間：9時～16時

休館日

書庫整理：4月26日，5月6日，5月31日，
6月28日

体育祭：5月18日 輝陽祭：6月10日

夏期休業期間：各週の(土)(日)(月)

試験期間中の貸出

6月26日(月)～7月8日(土)：1週間貸出

7月10日(月)～22日(土)：1日貸出

特別貸出

夏期休業貸出

期間：7月24日(月)～9月29日(金)

冊数：5冊

※上記予定についての詳細は、その都度掲示いたします。なお、夏期休業期間の8月に1週間の休館を予定しています。

「国民の知る自由を守り、ひろげていく責任を果たすことが必要である」と述べています。

宮澤新館長を迎えて新年度が始まりました。図書館の果たす役割とその責任の重さを心に刻んで、この一年努力していきたいと思います。

(M.O)

◆訂正 前号で短期大学分室の住所が神野になっていました。神明に訂正いたします。

Library Mate 第2号 1989年5月

発行所 実践女子大学図書館
東京都日野市大坂上4-1-1
実践女子大学図書館短期大学分室
東京都日野市神明1-13-1
発行責任者 宮澤文雄